

# 平成29年度第1回菊川市行財政改革推進懇話会 議事録

## 【日時】

平成29年6月29日（木） 午前9時30分～午前11時30分

## 【場所】

菊川市役所 2階 201・202 会議室

## 【出席委員】

坂本 光司 加藤 平三郎 藤川 伸二 村木 正宣 戸塚 正晴  
牧野 百里子 福井 逸子 齋藤 久司 松下 育蔵

## 【次第】

1 開 会

2 市長挨拶

3 会長挨拶

4 議 事

(1) 菊川市CAPDo!(実施計画) 平成28年度取組実績報告について

(2) 菊川市CAPDo!(実施計画) 平成29年度取組内容について

(3) 補助金等の見直しについて

(4) その他

5 閉 会

## ■開会

企画政策課長より開会の辞

## ■市長挨拶

市長より挨拶

## ■会長挨拶

会長より挨拶

## 【議事】

### 会長

お手元に次第があるかと思いますが、次第に入る前に、先程市長からも紹介がありましたが、新任者の方々から一言ずついただきたいと思います。よろしくお願いします。

- ・副市長から挨拶
- ・生活環境部長から挨拶
- ・建設経済部長から挨拶

### 会長

今日の議題ですが、菊川市CAPDo!の平成28年度実績報告と平成29年度取組について、また本日の主な議題になると思いますが、補助金等の見直しについて議論していただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

### 事務局

- (1) 菊川市CAPDo!(実施計画) 平成28年度取組実績報告について概要説明
- (2) 菊川市CAPDo!(実施計画) 平成29年度取組内容について概要説明

### 会長

ありがとうございました。事務局から平成28年度の実績報告と平成29年度取組計画について併せて説明がありました。これについて御質問やわかりにくかった点があればお願いします。

### 委員

感想ですが、病院経営の経常収支比率100%の目標について、若干足りませんでした、私はこの99.1%がものすごくがんばった結果であると感じます。これは他の項目と違って年間を通じて常時、緊張感を持っていなければ維持出来ないという辛さがある中でもう一息のところまでできています。そういった面で99.1%というのは評価できるという感想を持ちました。

また、6番のふるさと納税制度の活用で、2億1千万円、修正目標の230%達成ということで、多くの方がふるさと納税をしていただいたと思います。これは実質使えるお金が1億円あるということなので、ルーティーンではなく、しっかりとした目的を持って使っていただきたいと思います。また、平成29年度の目標は是非、平成28年度の実績以上の目標設定をして、拡大していただきたいと思います。

## 事務局

暖かいお言葉をいただき、ありがとうございます。とは申したものの、今回は目標に対してポイントで0.9、金額で4千900万円の未達となりました。これに対して、事務の責任者として責任を感じております。今年度については、新たに第3次の中期計画がいよいよスタートいたします。今回は診療部、医師にこれまでよりも厚く関わっていただいて、今後の4年間の病院経営を進めていきたいと考えておりますので、今後ともご指導の程、よろしく願いいたします。

## 事務局

ふるさと納税について説明させていただきます。委員からもお話があったとおり、平成28年度については目標を大きく上回る事が出来ました。件数では、平成27年度から平成28年度が1,085件から6,842件、金額では3,300万円から2億1,000万円となっています。今年度については、4月と5月で昨年度と比べますと、4月は金額ベースで2.46倍、5月は2.99倍と昨年以上に増えています。ただ、この要因を楽観視せず分析すると、御承知のとおり、4月に総務省から通知があり、ふるさと納税に対するお礼の品の金額を3割以下にすることや金券的なものはやめるようにということが言われています。そういったことから、ある意味で駆け込みの結果であることも考えられます。今年度いっぱいはいこれまでのスタイルになるかと思いますが、この通知を真摯に受け止めて今年度検討していくという状況になります。

## 委員

数値を見ても実績が非常に高いということで、なかなかここまでの結果が揃うこともないかと思います。その一方で、数値というのはどれだけ投下資本をかけたかということと、最初の目標設定が正しかったのか、もう少し高い目標でも良かったのではないかということも感じられるものもあります。当然、一生懸命やった結果であるかと思いますが、投下資本や人員を予想以上にかけてしまったために早く達成したのか、新しい力なのか、外部の要因なのかをもう一度精査していただきたいと思います。

それから、テクニカルな話ですが、未収金対策ですが、県でも一部自治体の実績が非常に悪いので、チームを作って取るものを徹底的に取っていくということをしていますが、市や町は住民との距離が非常に近いので、それを踏まえてプロ化というようなことを考えていく必要があると思います。これはお金を掛ければ良いという話ではないので、是非御検討していただきたいと思います。

もうひとつ、これも難しい問題ですが、公共施設の有効利用で、上本所団地に入居者が入らないということですが、民間であれば入らない部屋は賃貸料を下げています。そういったところが、公的機関だと不公平にならないということで考えますが、入居者が入らないという状況ではそういった観点で考えられないかどうか御検討いただければどうかと

思います。

最後に、ふるさと納税ですが、数字は非常に上がっていますが、ここで得た1億円というのを今後も継続することは難しい状況となっています。40億円を稼いでいた焼津市では、総務省の通知が出る前に、稼げる時に稼いでおき、それを基金に積んで、今後10年で事業に使っていくと決めていたようです。菊川市においては、そういった気持ちではなくても構わないと思いますが、1億円の使い方について、先程委員からもお話があったとおり、単年度の事業で使ってしまうよりも、菊川市の魅力をさらに増していくような将来的な経費、例えば観光などに使っていくことを考えた方が良いのではないかと思います。棚田等の魅力がある場所もありますし、菊川のお茶については、今後、県でも静岡空港と金谷を結んだ場所に茶の都ミュージアムを作り、お茶の強力な拠点となりますので、そこに深蒸し茶の本家本元である菊川市として上手く出していただいて、菊川のお茶は日本一であることをPRしていただきたいと思います。そういった事業に1億円は使った方が良いのではないかと感じます。

## 会長

ありがとうございました。何点かお話がありましたが、数値の算定については、難易度や即効度、投下資本を見て厳しく出しているのも、問題はないだろうと思います。また、滞納に対する対応についてもお話がありました。3つ目は上本所団地についてですが、ここだけ理由は定かではないですが、入居率が低いということで、対策を述べていただきました。最後は、ふるさと納税について、通知も出ており、急激に萎んでいく可能性もありますので、得たものを基金化するなどの御提案でした。

## 事務局

貴重な御意見をありがとうございます。目標設定について、私どももそこについては慎重に取り組んでいるところです。CAPDo!は2年間の計画としており、今日説明したのは平成28年度、平成29年度について説明しておりますが、現在、平成30年度、平成31年度の中期計画を作っているところです。その中で、御指摘があった目標設定については、気を付けて行っていきたいと考えております。

また、徴収についてですが、滞納処分については法律で決まったものがありますので、積極的に実施しているところですが、平成28年度にワーキンググループを立ち上げましたので、現在、担当レベルで税以外の債権についても全体としての取組みについての協議をしております。本年度は市の債権条例を作る話をしておりますが、それに併せて徴収の組織体制についても検討しているところであります。

## 事務局

市営住宅の関係ですが、市内に3つの団地がある中で、上本所団地の入居が伸びていない理由として、高齢者の方が買い物に行ける範囲があるのではないかと考えています。また、3団地の中では若者の入居者が一時多かったのですが、この方達が家を建てて出ていった後に入居者が入ってこないという傾向があります。赤土団地、長池団地については比較的出入りが少ない団地になるので、入居率は継続して90%以上を保っているところです。また、建物自体については、計画的に長寿命化を進めています。長池団地については全棟の長寿命化は終了し、本年度から上本所団地に入っていきます。それによって建物の印象

も変わってきますし、間取りも広いですので、是非PRしていきたいと考えています。実際のところ、料金については公営住宅法に基づいて、所得や未就学児等の条件で決まってくるのですが、使い道については、公営住宅法の目的外使用に抵触しない範囲でどのようなことが出来るか考え、これによって入居率を改善させていきたいと考えています。昨年度は入居条件を緩和し、市外の方も受入れることとしましたが、まだ入居率は伸びてきていないので、他の方法も考えていきたいと思えます。

もう一点にふるさと納税の使い道については、御意見をいただいたとおり、財政課とも協議し、有効利用をしていきたいと考えています。御提案のあった観光事業については、菊川市としては体験型の観光事業をメインで力を入れております。お茶に限らず、農産物の収穫体験もあります。観光事業については広域連携も必要であると認識しておりますので、これを含めて、有効利用について考えていきたいと思えます。

## 委員

上本所団地についてですが、前回、青葉台の空き家対策についてお話しましたが、空き家対策は土地家屋所有者、地域、行政、企業にとってもメリットがあると考えています。上本所団地の目的外使用について検討していただくのであれば、外部から菊川市に興味のある家族に提供して、試行的に住んでいただくという活用が出来ないのかというように思えます。兵庫県では空き家対策を積極的にやっていますし、そういった使い方が出来ればよいと感じます。上本所は駅に近く、綺麗で新しく広いので、デメリットは少ないと感じます。是非御検討いただければと思えます。

## 事務局

御提案ありがとうございます。目的外使用について、資料でも福祉事業等について検討するとありますが、お話のあった移住等の政策的な事業や昨年度委員から提案のあった社宅としての活用等、法律に抵触しない範囲で、条例の改正で対応出来るか等、検討していきたいと考えております。

## 副会長

平成28年度の実績についてですが、数回に渡ってどのように評価するか協議してきましたが、毎回数字が上がり、見易くなってきていると感じます。未達成のものもありますが、これからは内容を精査し、何をどうすれば菊川が良くなるのかを考えていくということだと思います。CAPDo!についてはCheckの部分がかなり充実してきたと、この表を見て感じました。

## 委員

下水道についてですが、アクションプランを新たに策定し、対象地域を広げるということかと思いますが、予定表を見て、県とも協議をするかと思いますが、地元とも話をして、住民にも早く下水道事業を行っていくことを伝えていく必要があるかと思えます。

## 事務局

御意見ありがとうございます。生活に密着する部分になりますので、私どもとしまして、なるべく早い説明をして、工事が進めば接続という形になるように、御理解をいた

きたいと考えております。

## 会長

説明をしても、住民としては説明不足だと言われることもよくありますので、何回も説明を重ねることが重要だと思います。是非進めていただきたいと感じます。

全体として、各委員から意見がありましたが、取り組みについて一定以上の評価があったかと思います。平成29年度もこれをベースにして取り組んでいただき、この会議でも定期的にチェックしていきたいと考えます。これについては、御承認いただいたということによろしいでしょうか。

## 事務局

### (3) 補助金等の見直しについて概要説明

## 会長

ありがとうございました。改めて説明すると、これまで補助金等の見直しを何回か行ってきましたが、菊川市として100以上の補助金がある中で、全てを懇話会で把握を行うということは難しいことです。そこで、一番の専門家は本部員である部長になりますので、業務を行う中で疑問に思う補助金を挙げていただいたということです。自分の部だけではなく他の部の分も見てもらうことで客観性を担保し、10人の部長が投票を行いました。その中で、5票以上の得票があった14事業と、3票以上、500万円以上のものが7事業ありましたので、計21事業となります。これを市民感覚でよく見ていただいて投票していただいて、私と事務局で擦り合わせをして、次回までに5事業程度を決めていきたいと考えています。補助金は出すべきものは出すべきですが、やり過ぎてしまうと相手の思考を止めてしまうものなので、これまで10年も20年も補助金をもらっているのに、これからは補助されて当然というのは違うと思います。異常と比較すると異常があったものも正常に見えるということもありますので、そういった錯覚に陥ってしまうこともあります。

手続きについて、個別の事業についてどちらでも結構ですので、御意見等ありますでしょうか。

## 委員

金額は大きくないですが、職員の能力開発のための通信教育の補助について、実績が下がっており、確認ですが、市として必要な階層別等の能力開発があり、それでも足りずにオプションとして能力開発を行っているのかという点と、毎年実績額が同じものがありますが、これは何かのルールによってそうなっているのかということをお教えいただきたいと思っています。

## 事務局

階層別の能力開発についてですが、資料にもあるとおり、3市広域研修というものがあります。研修は単独の市で講師を呼んで行うことは非効率でもあるので、菊川市、御前崎市、牧之原市の3市で研修計画を持っています。その中で階層別の研修も行っていますが、通信教育については、職員が自己の置かれた立場や意志に基づき、主体的に能力開発に取り組むということで、自分のスキルアップを行っています。例えば複式簿記を勉強したい

といった場合の、参加費の一部を市が負担するものです。補助については、1万円程度の額となっておりますので、少額ではありますが、個人のスキルアップを助成しているということです。

## 会長

今説明がありましたが、平成27年度の実績が127千円、平成28年度の実績が67千円となっています。2年間だけの実績になりますが、希望者が減っているということでしょうか。

## 事務局

補助金に対する見解欄でも説明させていただいていますが、年度によっては希望者の減少や、受講が未修了で終わり、補助に至らない場合もございます。そういった理由で変動が出ていますが、市としても予算を付けているので、職員が積極的に受講していただくように呼び掛けを行っていきたくて考えています。受講者数は、平成26年度は10人、平成27年度は14人、平成28年度は8人となっています。

## 会長

講座のメニューはどんなものがあるのでしょうか。簿記等ですか。

## 事務局

その他、語学のものなどがあります。メニューについても、3市で組んでいるものになります。

## 会長

これは通信教育になる訳ですよね。だんだん人数が減って、他の研修に回した方が良いのではないかという意見があり、外部評価の対象となったのかもしれない。

## 委員

あと、資料を見ると実績金額が毎年度一緒の額である事業が多いのですが、その理由を教えてくださいたいです。

## 事務局

実績金額が毎年同じ事業についてですが、予算額まで補助するということで定額となっているものもあります。一方で、不妊治療助成金等は、申請があればその方に補助を出しています。個人に対する補助と団体に対する補助で異なってくる部分もあります。個人対象のものは申請件数によって実績額が大きく影響されますし、団体運営費に対する補助については毎年同じ実績額となる場合もございます。

## 委員

地域福祉活動推進事業費についてですが、繰越金が多く、補助額を上回っています。また、事業費に対する繰越金の額が年々増えていますが、理由があるのでしょうか。

もう一点、先程の通信教育に対する補助金の件ですが、8人という実績なので、若い職員にもっと勉強していただいた方が良いのではないかと感じました。

## 事務局

繰越金についてですが、資料の社会福祉協議会の会計については、社会福祉法人の会計基準に基づいたものが記載されており、団体決算額については、他の事業も含まれたものになります。繰越額についても、他の事業を含めた決算額が記載されています。補助実績金額の3,459千円についての区分けをすれば良かったと思いますが、資料がわかりにくい形となり、申し訳ございませんでした。

## 会長

重要なお指摘であったと思います。こういったケースはあることで、今は説明がありましたのでわかりやすくなりましたが、団体決算全体がある中で、補助対象事業と自主事業がそれぞれあるということだと思います。ただ、繰越金の出せる余裕があるところに繰越金と同額程度の補助金を出す意味はあるのかという意見も確かにあるのではないかと思います。例えば、ある会員団体があって、会員から1年間にもらう会費より補助金の金額の方が多という団体もたくさん存在します。そういったことも含めてのご指摘でした。

また、研修に対しては、市として単独や合同、県、国等で集合研修やセミナーがありますが、これは通信教育ということで、研修の補強ということだと思いますが、傾向としては減っているのが事実だと感じます。担当課で調べ、ニーズに合わせて検討することも必要だと思います。

## 委員

いくつか質問があります。先程の繰越金の件について、福祉相談事業費補助金についても同様ですが、全体ではなく、実際に補助金を支出した分についての決算内容を記載していただきたいと思います。

また、環境保全茶栽培事業補助金について、毎年40万円の補助を行っていますが、これはJA夢咲農協に委託として渡しているということでしょうか。お茶の施肥量や消毒の関係というのは、栽培履歴を作っているのだから、補助金を出す意義というのは本来無いと考えます。

経営改善普及事業補助金、消費拡大事業補助金については、説明がほとんど一緒ですが、内容が被っている部分もあるのではないかと感じます。商工業の振興や安定、観光については良いと思いますが、勤労者の福祉の増進を図ることを目的に補助金が出ているという点について説明をお願いします。

自給率向上推進対策事業補助金については、平成30年度に廃止するという方向が出ているということでしょうか。

最後に、消防団の分団運営費交付金についてですが、縮小とある中で団員一人当たり2万円が出て、それが経費になるかと思いますが、そこまで削らなくても良いのではないかと感じますので、説明をお願いします。

## 事務局

環境保全茶栽培事業補助金については、JAへ補助を出していますが、茶園管理に係る適正な施肥量調整や病虫害の情報発信等をしていただいている中で、JA管内の菊川市、掛川市、御前崎市の3市で均等割、設置割を用いて負担しており、菊川市として毎年40万

円を補助しているということです。3市の計では176万円となっています。この事業が必要かという議論になるかと思いますが、この情報は農家にとって非常に有意義なものであると聞いています。

経営改善普及事業補助金、消費拡大事業補助金について、それぞれ出している項目は別となります。補助要綱はひとつとなりますので、概要欄には補助要綱の趣旨の部分を記載してありますが、補助が被っている部分はないと考えています。

## 委員

経営改善普及事業補助金、消費拡大事業補助金について、まとめても問題ないということでしょうか。

## 事務局

ひとつの補助要綱の中で、目的ごとに対象事業を設定し、補助率を決めており、事業ごとに補助率が異なるということから、ひとつにまとめる場合はその問題があります。

## 会長

同じ商工会に対する補助ということで、クロスしている部分もあるかと思いますが、補助率の関係があることも事実だと思しますので、こういった形でも良いのではないかと思います。

## 委員

本日資料にある21事業の中には補助事業の中には高額のもの、少額のものがありますが、109事業全体についても知りたいと思います。補助金の金額順で10事業や20事業程度を並べて提供していただきたいと思います。審査の対象としたいということではなく、知りたいということです。次回に資料として出していただければありがたいです。

## 事務局

先程の委員からのご質問の中で、消防団の運営交付金の話がありましたので回答させていただきます。縮小なのか継続なのかということですが、交付金としては、消防団互助会の費用、消防団幹部研修の費用、消防団運営費用で構成されています。その中で、今回縮小させていきたいと考えているのは、消防団互助会事業についてです。昨年度、29件の慶弔に関する支出があり、金額とすると40万円程度となりますが、補助金等の見直し指針に照らして考えると、慶弔費は補助金としてはふさわしくない事業であるという中で非常に動きにくい部分があります。消防団員が減少していく中で、団員を確保し、地域と連携をしながら活動しやすい環境を目指しているところではありますが、団員及びその家族のメリットを考え、互助会事業の見直し、発展を検討していきたいと思っております。事業としては、消防団の広報誌を発刊や用品の購入がありますが、市としてやるべき事業と互助会でやる事業を分け、消防団として発展的に事業を進めたいという意義で、交付金の中で、互助会事業については縮小させ、その他の事業は継続させるという評価をさせていただきました。

## 会長

補助金全体の話ですが、補助金リストの件は事務局よろしいでしょうか。

## 事務局

補助金リストの件については、外部評価対象事業選定の通知に合わせて委員の皆様へ送付させていただきます。事業費の大きい順で、30件程度のリストを作成します。

## 委員

シルバー人材センター補助金の関係ですが、シルバー人材センターを利用させていただいたことがあり、安くて早くて親切で、とても良かったのですが、この補助金が事務の手当や交通費など、何に使われているのか、また、黒字なのかということを知りたいと思います。

## 事務局

シルバー人材センターについて、国と県から補助金が出ており、使途としては、事務所等に従事する職員の人件費、事務所等の運営費が主になっています。賃金の5%を事務費としていただいておりますが、それだけでは賄えませんので、国・県で補助をして運営しているものです。料金について、以前は最低賃金を基準にして一律の額としてきましたが、現在では能力・技術・作業の度合いを勘案して賃金を決定しています。

## 委員

本当は、補助金はゼロベースで、本当に必要なものを積み上げるという考えでなければいけません。これは難しいかと思っておりますので、どこかで一律10%や20%などカットを考えて、それを戦略的な経費にもう一度振り分けていただきたいと思っております。一律カットを行った際に、こういった事業をするから補助金を増やしてもらいたいという説明をしていただき、担当課で今の補助金を守るということだけではなく、改良案を出してもらえばより良くなるのではないかと感じます。そうすれば大きく変わるのではないかと感じますし、子育てのまちづくりが今後必要になってきますので、どこかで取り入れていただきたいと感じます。また、団体を支える経費としてなくてはならないものがあるのは事実ですが、補助金に頼りきりになっている団体もあり、それは変わってもらわないといけない部分でもあります。補助金の削減額についても問われるかと思っておりますが、最終的には削減よりも有効活用について考えていただきたいと思っております。商工会や観光協会などを含めて、本当に必要なもの、効果があるものへの補助に変えていくことが出来るのではないかと感じます。次回までにとということではありませんが、担当課がどうすれば団体を活かせるかを常に考えるべきであると感じます。

## 会長

貴重な御意見をありがとうございました。補助金見直しについて、次回になるかもしれませんが、根本的な方法について議論していければ良いと思っております。今後日程について説明をお願いします。

## 事務局

今後のスケジュールについて説明

■閉会